

校長および教員としての資質の向上に関する指標(中間案)

別添資料2

(1) 教員としての資質の向上に関する指標

ライフステージ	教職着任時	第1ステージ	第2ステージ	第3ステージ	第4ステージ
		初任～教職経験5年次	教職経験6年次～10年次	教職経験11年次～20年次	教職経験21年次以降
		基礎形成期	伸長期	充実期	発展期
資質能力にかか る項目		実践力を磨き、基礎・基盤を固める。	知識や経験に基づいた実践力を高める。	多様な知識と経験に基づいた実践を展開するとともに、若手教員の指導を行い、学校の中核的役割を担う。	高い専門性と豊かな経験を持ち、高度な実践を展開するとともに、指導力を発揮し、学校づくりや教育活動をリードする。
				指導教諭 高い専門性に基づき、教員の授業力向上のための指導・助言を行う。	
				主幹教諭 関係主任と連携して管理職を補佐し、学校の管理運営に関する事項等を行う。	
必要とされる素 養	教育的愛情 使命感 責任感	○児童生徒への深い愛情と教員としての使命感や責任感を身に付けている。	○児童生徒への深い愛情と、教職への誇り、強い使命感と責任感を持って、職務を遂行することができる。	○児童生徒への深い愛情と、教職への誇り、強い使命感と責任感を持って職務を遂行するとともに、他の教職員の抱える課題をとらえ、適切な指導・助言ができる。	
	倫理観 コンプライアンス	○法令遵守や服務規律確保の重要性を理解している。	○教育公務員としての自覚と規範意識を持ち、法令や服務規律の遵守を徹底している。 ○自らの行動が学校教育に寄せる県民の信頼に与える影響を理解し、自らを厳しく律することができる。	○教育公務員としての自覚と規範意識を持ち、法令や服務規律の遵守を徹底するとともに、他の教職員に適切な指導・助言ができる。 ○自らの行動が学校教育に寄せる県民の信頼に与える影響を自覚し、自らを厳しく律するとともに、他の教職員の抱える課題をとらえ、適切な指導・助言ができる。	
	社会性 コミュニケーション力	○社会人としての常識と教養を身に付け、立場に応じた発言や行動ができる。	○確かな人権感覚を持ち、児童生徒や保護者、地域等との信頼関係を構築することができる。 ○相手の思いを受け止めるとともに、自分の考えを適切に伝えることができ、組織の一員として行動できる。	○確かな人権感覚を持ち、児童生徒や保護者、地域等との信頼関係を構築するとともに、他の教職員の抱える課題をとらえ、適切な指導・助言ができる。 ○教職員間の円滑なコミュニケーションを促進し、活力ある組織づくりに貢献できる。	
	学び続ける意欲 探究心	○自己研鑽の必要性について理解し、自ら学び続ける意欲を持っている。	○探究心を持って自己研鑽に努めるとともに、他の教職員と共に学び合い、職務の改善に生かすことができる。	○探究心を持って自己研鑽に努めるとともに、他の教職員に適切な指導・助言を行い、学校組織の中で「教職員を育てる文化」の醸成に寄与することができる。	
教職を担うにあたり必要とされる専門性	児童生徒理解	○児童生徒一人ひとりの実態や生活背景をふまえ、個性を大切にするとともに、細やかな配慮の必要性を理解している。	○児童生徒一人ひとりの実態や生活背景を把握し、カウンセリングマインドを持って向き合うことができる。	○児童生徒一人ひとりの実態や生活背景を的確にとらえ、カウンセリングスキルを生かして、一人ひとりに対する理解を深めることができる。	○児童生徒一人ひとりの実態や生活背景を的確にとらえ、個に応じた指導方針を立て、他の教職員に指導・助言を行いながら、適切に対応することができる。
	授業計画	○学習指導要領の内容を理解し、授業づくりに向けて、教科等に関する専門的知識・技能を身に付けている。	○学習指導要領のねらいをふまえ、児童生徒の実態に応じて、児童生徒の主体的な学びを引き出す授業づくりができる。	○学習指導要領のねらいをふまえ、児童生徒の発達段階や習熟度に応じて創意工夫を凝らした授業づくりができる。	○高い専門性を身に付け、創意工夫を凝らした授業づくりを行うとともに、カリキュラム・マネジメントの視点を生かした指導計画について、若手教員に適切な指導・助言ができる。 【指導教諭】 ○高い専門性を生かした授業づくりを行うとともに効果的な指導資料の提示・共有を図り、適切な指導・助言をとおして自校のみならず、地域内の教員の授業力向上に向けても、指導・助言ができる。
	授業実践	○基礎的な指導方法や指導技術を身に付け、授業を実践することができるとともに、学習評価を適切に行うことの大切さを理解している。	○児童生徒主体の授業を行うための適切な技能(説明・指示・発問等)を身に付け、各時限の目標を明確にした授業を実践し、児童生徒の学習評価を適切に行うことができる。	○児童生徒の発達段階や習熟度に応じ、創意工夫を凝らした授業を実践し、児童生徒の学習評価を適切に行うことができる。	○高い専門性を身に付け、創意工夫を凝らした授業を実践するとともに、児童生徒の学習評価を適切に行うことができる。また、若手教員の指導上の課題をとらえ、例示を挙げながら適切な指導・助言ができる。 【指導教諭】 ○授業力向上に向けた取組の課題を明らかにし、他の教員の模範となる授業を自ら実践して積極的に公開するとともに、教員一人ひとりに応じた指導・助言ができる。
	授業改善	○授業研究の必要性を理解し、授業改善に向け、継続して努力ができる。	○教科等の指導の工夫に努めるとともに、自らの授業を振り返り、他の教員の良いところを取り入れて、授業改善を図ることができる。	○教科等の指導の工夫に努めるとともに、自らの授業を振り返り、他の教員と授業研究をする中で、継続した授業改善を図ることができる。	○高い専門性を身に付け、豊かな経験を生かして、中核となって継続的に授業改善を図るとともに、若手教員の指導方法について改善につながる適切な指導・助言ができる。 【指導教諭】 ○指導力向上に向けた研修会等において、高い専門性を生かし、指導力や技術力向上のための適切な指導・助言ができる。
生徒指導	○個や集団を指導するための手立てを理解している。	○日常的に児童生徒の生活状況を把握するとともに、児童生徒の発するサインを見逃すことなく、問題行動等を早期に見出し、他の教職員に報告・連絡・相談しながら迅速に対応することができる。	○日常的に児童生徒の生活状況を把握し、必要な声掛け、指導を行い、信頼関係を築くとともに、問題行動等の早期発見、迅速な対応を組織的に行うことができる。	○児童生徒の生活状況や心情を理解し、信頼関係を築きながら、必要な個別指導や集団指導を行うことができる。また、問題行動等の背景や原因を的確に把握して、適切な指導を組織的・系統的に行うことができる。 ○若手教員が抱える生徒指導上の諸課題について、適切な指導・助言ができる。 ○他の教員が抱える生徒指導上の諸課題について、適切な指導・助言ができる。	

ライフステージ	教職着任時	第1ステージ	第2ステージ	第3ステージ	第4ステージ
		初任～教職経験5年次	教職経験6年次～10年次	教職経験11年次～20年次	教職経験21年次以降
		基礎形成期	伸長期	充実期	発展期
資質能力にかかわる項目		実践力を磨き、基礎・基盤を固める。	知識や経験に基づいた実践力を高める。	多様な知識と経験に基づいた実践を展開するとともに、若手教員の指導を行い、学校の中核的役割を担う。	高い専門性と豊かな経験を持ち、高度な実践を展開するとともに、指導力を発揮し、学校づくりや教育活動をリードする。
				指導教諭 高い専門性に基づき、教員の授業力向上のための指導・助言を行う。	主幹教諭 関係主任と連携して管理職を補佐し、学校の管理運営に関する事項等を行う。
学校組織運営力	学級経営 学校運営への参画	○学級担任としての役割や校務分掌の内容を理解している。	○学校教育目標を理解し、学級経営や教科指導を実践するとともに、担当する校務分掌における自らの役割を自覚して、計画的に職務を遂行できる。	○学校教育目標を理解して学級を経営するとともに、学校運営に積極的に参画し、担当する校務分掌についての企画・立案や改善策を提案できる。	○学校教育目標の達成や学校の課題解決のため、学級経営や学校運営に積極的に参画することができる。また、若手教員が抱える学級経営上の課題に気づき、適切な指導・助言を行い、学校全体の教育活動の活性化に寄与することができる。 【主幹教諭】 ○校長の経営方針をふまえ、各分掌における課題について解決策を提案し、適切な学校運営に中心的に参画することができる。
	危機管理	○学校における安全配慮義務や危機管理の重要性を理解するとともに、有事の際に基本的な危機回避行動ができる。	○児童生徒の活動に際し、常に危機管理意識を持ち、他の教職員の指導・助言を受けながら的確な安全確保策を講じることができる。	○児童生徒の活動に際し、常に危機管理意識を持ち、周囲と相談・確認しながら、迅速かつ的確な安全確保対策を講じることができる。	○危機を予測した未然防止の取組と、危機の早期発見、早期対応に努め、学校全体の安全・防災について中心的な役割を担うことができる。
	チームワーク 人材育成	○組織の一員としての自覚を持ち、周囲からの指導・助言を受け止め、周囲と連携・協力して行動することができる。	○組織の一員として求められる役割を理解し、他の教職員からの指導・助言を受けながら協働し、円滑に職務を遂行することができる。	○主体的に職務を遂行するとともに、課題を共有できる環境づくりに努め、若手教員をサポートしながら学び合うことができる。	○教育活動が組織的に行われるよう、教職員が互いに学び合い、支え合う環境づくりの中核的役割を担うことができる。 【指導教諭】 ○自校を中心に、授業観察を通じた指導・助言や個別相談を行う等、教職員を指導・育成することができる。 【主幹教諭】 ○学校全体の課題解決に有効な企画を管理職に提案し、教職員を指導・育成することができる。
	家庭・地域社会・関係機関との連携と協働	○学校が家庭や地域、関係機関と連携して教育活動を行うことの効果や重要性を理解している。	○主体的・積極的に家庭や地域と関わり、良好な信頼関係を築くとともに、他の教職員の指導・助言を受けながら適切に対応することができる。	○家庭や地域、関係機関と良好な信頼関係を築き、連携・協働した教育活動に取り組むことができる。	○家庭や地域、関係機関との信頼関係を深め、連携・協働した教育活動を企画・立案することができる。 ○家庭や地域、関係機関との調整役を果たすと同時に、情報発信を行う等、連携・協働した教育活動の具体的な取組を組織的に推進することができる。
	ワーク・ライフ・バランス	○ワーク・ライフ・バランスの重要性を理解している。	○業務の簡素化や効率化について、他の教職員との対話を通して業務改善を図り、心身ともに健康で意欲的に職務を遂行できる。	○業務の簡素化や効率化を図るための教職員間の対話を促進し、心身ともに健康で意欲的に職務を遂行できるよう教職員が協力しあえる組織風土づくりに寄与することができる。	
	グローバル教育・郷土教育	○豊かな国際感覚を持つことや、郷土を愛することの大切さを理解している。	○地域と連携して、豊かな国際感覚と郷土を愛する心を身に付ける学習を展開することができる。	○地域と連携して、豊かな国際感覚と郷土を愛する心を身に付ける学習を展開するとともに、指導方法について若手教員に適切な指導・助言ができる。	○地域と連携して、豊かな国際感覚と郷土を愛する心を身に付ける学習を展開し、学校全体の取組において、指導的な役割を果たすことができる。
	キャリア教育	○社会の動向やニーズに関心をもち、キャリア教育の重要性を理解している。	○児童生徒が学ぶことと将来のつながりを見通し、社会的・職業的に自立する力を身に付ける学習を展開することができる。	○児童生徒が学ぶことと将来のつながりを見通し、社会的・職業的に自立する力を身に付けるために、指導体制を整備し、指導方法について若手教員に適切な指導・助言ができる。	○児童生徒が学ぶことと将来のつながりを見通し、社会的・職業的に自立する力を身に付けるために、指導体制を整備することができる。
	情報教育	○ICTの効果や情報教育の必要性を理解している。	○児童生徒に情報活用の実践力や情報モラルについての理解を深めるための学習を展開することができる。	○児童生徒に情報活用の実践力や情報モラルについての理解を深めるための学習を展開し、学校全体の取組において指導的な役割を果たすことができる。	
	人権教育	○人権教育の意義とその重要性を理解し、差別や偏見をなくすための自らの責務を自覚している。	○人権教育基本方針を理解している。 ○児童生徒が人権課題についての正しい理解と認識を深め、差別意識をなくそうとする態度や実践力を育む指導を他の教職員と相談しながら、展開することができる。	○児童生徒が人権課題についての正しい理解と認識を深め、差別解消に向けて自ら考え、行動できる力を育む指導を他の教職員と連携しながら、展開することができる。	○人権教育推進計画に基づく取組を系統的・日常的に実践するとともに、解決すべき課題や指導のねらいを明らかにして、若手教員に適切な指導・助言ができる。
	特別な支援を必要とする児童生徒への対応	○特別な支援を必要とする児童生徒への指導・支援の必要性を理解している。	○児童生徒の特性や実態を把握し、他の教職員と連携・協力しながら、一人ひとりに応じた適切な指導・支援を行うことができる。	○児童生徒の特性や実態を把握するとともに、一人ひとりに応じた指導内容や指導方法を工夫し、適切な指導・支援を行うことができる。	○児童生徒への指導・支援の中心的役割を担い、一人ひとりに応じた指導内容や指導方法について、教職員間の共通理解を深めるとともに、適切な指導・助言ができる。 ○児童生徒の指導・支援について深い見識を持ち、家庭や地域、関係機関との連携を図り、校内外において組織的な取組を進めることができる。
教育課題への対応力	いじめに関する事項	○いじめの未然防止、早期把握の必要性を理解している。	○いじめの未然防止や早期把握のために、児童生徒の発するサインを察知し、適切に対応することができる。また、早期解決に向けて、他の教職員と連携・協力しながら組織的に取り組むことができる。	○いじめの未然防止や早期把握のために、児童生徒の行動やわずかな変化を察知し、適切に対応することができる。また、早期解決に向けて、管理職と連携し、他の教職員に適切な指導・助言をしながら、組織的に取り組むことができる。	
	不登校に関する事項	○不登校の未然防止、初期対応の必要性を理解している。	○児童生徒の居場所づくりや仲間づくりを通して不登校の未然防止に取り組むとともに、積極的な声かけや関わりにより、初期段階での改善・解消に向け、他の教職員と連携・協力しながら組織的な対応をすることができる。	○児童生徒の実態を把握し、居場所づくりや仲間づくりを通して不登校の未然防止に取り組むとともに、積極的な声かけや関わりにより、努め、初期段階での改善・解消に向け、保護者や関係機関と連携しながら、他の教職員に適切な指導・助言を行い、組織的な対応をすることができる。	
	防災に関する事項	○三重県の地理的特性をふまえた防災教育の重要性を理解している。	○児童生徒が三重県の地理的特性を理解し、防災に関する知識を深めるとともに、危険を回避する方法を習得できるよう指導することができる。	○児童生徒が三重県の地理的特性を理解し、防災に関する知識を深め、危険を予測し回避する能力と自然災害に対応する力を家庭や地域と連携して指導することができる。	

校長および教員としての資質の向上に関する指標(中間案)

(2) 教頭・准校長および校長としての資質の向上に関する指標

職 階		教 頭・准校長	校 長
		マネジメント力の向上	マネジメント力の発揮
資質能力にかかわる項目		校長を補佐し、管理職として教職員をとりまとめ、豊かな教職経験を生かして適切に学校経営を行う。	教育者として高い見識を持ち、学校のリーダーとして幅広い視野で学校経営を行う。
教職を担うにあたり必要とされる素養	教育的愛情 使命感 責任感	○児童生徒への深い愛情と、教職への誇りを持って、児童生徒の教育にあたるとともに、教職員の行動の模範となることできる。また、強い使命感と責任感をもって、学校運営に粘り強くあたることができる。	○児童生徒への深い愛情と、教職への誇りを持って、児童生徒の教育にあたるとともに、教職員の行動の模範となることできる。また、強い使命感と責任感をもって、学校運営に粘り強くあたることができる。
	倫理観 コンプライアンス	○高い倫理観を持ち、コンプライアンスを常に意識して自らを厳しく律し、児童生徒や教職員の模範となる行動をとることにより、信頼される学校づくりを進めることができる。	○高い倫理観を持ち、コンプライアンスを常に意識して自らを厳しく律し、児童生徒や教職員の模範となる行動をとることにより、信頼される学校づくりを進めることができる。
	社会性 コミュニケーション力	○高い人権感覚を有し、保護者をはじめとした関係者、関係機関と誠意をもって対話し、信頼関係を築くことができる。また、情報共有を大切にして、教職員との信頼関係を深め、人間関係が円滑で働きやすい職場づくりを進めることができる。	○高い人権感覚を有し、保護者をはじめとした関係者、関係機関と誠意をもって対話し、信頼関係を築くことができる。また、情報共有を大切にして、教職員との信頼関係を深め、人間関係が円滑で働きやすい職場づくりを進めることができる。
	学び続ける意欲 探究心	○管理職として高い見識と広い視野を持ち、常に自分の姿を振り返りながら、自らの力量を高めるために継続的に研究や研鑽に励むことができる。	○管理職として高い見識と広い視野を持ち、常に自分の姿を振り返りながら、自らの力量を高めるために継続的に研究や研鑽に励むことができる。
管理職として必要とされるマネジメント力	教員の指導力向上	○校長が示すカリキュラム・マネジメントに基づく方針を理解し、校内研修を企画・運営する等、教員の指導力向上・授業改善の取組を組織的かつ計画的に推進するとともに、教員に授業改善に向けた適切な指導・助言ができる。	○学習指導要領等の理念の実現に向け、児童生徒の姿や地域の実情をふまえたカリキュラム・マネジメントを適切に行い、教員の指導力向上・授業改善の取組を組織的かつ計画的に推進するとともに、教員に授業改善に向けた適切な指導・助言ができる。
	学校経営	○校長が示す学校経営方針や学校教育目標の達成に向けて教職員が一丸となって取り組むことができるよう校内組織をまとめ、教職員の抱える課題をとらえ、適切な指導・助言ができる。	○地域の特性や学校へ寄せられる期待等をふまえて、学校経営に係る課題を的確に把握して学校経営方針や学校教育目標を設定し、その達成に向けて組織的に継続して取り組むことができる。
	危機管理	○学校を取り巻く危機管理について、家庭や地域、関係機関と連携し、危機発生時には、児童生徒の安全確保を最優先して、対応方針に沿って主体的に対応するとともに、教職員に的確な指示をすることができる。	○学校に係る危機を想定して、日常から未然防止の対策を講じるとともに、危機発生時には対応方針を明確に示し、迅速かつ組織的に対応できる。
	チームワーク 人材育成	○教職員の能力や適性を的確に把握し、個々の特性を生かしながら、その伸長をはかるとともに、対話によって信頼関係を深め、チームとして機能するよう学校の体制を整えることができる。	○教職員の能力や適性を的確に把握し、必要な指導と支援によりその伸長をはかり、教職員が信頼関係を深め、チームとして機能する学校の体制を構築することができる。
	家庭・地域社会・関係機関との連携と協働	○地域とのつながりを深め、家庭、地域社会、関係機関の要望を的確に把握し、連携・協力を得ながら、自校の教育活動を進めることができる。	○家庭、地域社会、関係機関との信頼関係を築き、積極的に外部人材を活用する等、関係者の協力を得ながら自校の教育活動に必要な体制を構築することができる。
	ワーク・ライフ・バランス	○ワーク・ライフ・バランスの考え方にに基づき、教職員が児童生徒と向き合う時間を確保し、心身ともに健康で誇りとやりがいをもって職務に専念できるよう、教職員の勤務時間や勤務状況等を把握し、必要に応じて相談に応じるとともに、適切な指導・助言ができる。	○ワーク・ライフ・バランスの考え方にに基づき、教職員が児童生徒と向き合う時間を確保し、心身ともに健康で誇りとやりがいをもって働くことができる職場づくりを推進するため、教職員の勤務時間等の管理を適正に行うとともに、業務の改善や働き方の見直しを率先して行うことができる。
	グローバル教育・郷土教育	○児童生徒に豊かな国際感覚や郷土に対する愛着と誇りを育む教育活動を、学校の教育目標に沿って教職員が組織的に展開できるよう、適切な指導・助言ができる。	○児童生徒に豊かな国際感覚や郷土に対する愛着と誇りを育む教育活動を展開できるよう、学校の教育目標を設定し、教職員が組織的に取り組む体制を構築することができる。
	キャリア教育	○児童生徒が学ぶことと将来のつながりを見通し、社会的・職業的に自立する力を身に付けるために、学校のキャリア教育の目標に沿って、保護者や地域、関係機関との連携を図りながら、教職員が組織的に取り組むことができるよう、適切な指導・助言ができる。	○児童生徒が学ぶことと将来のつながりを見通し、社会的・職業的に自立する力を身に付けるために、キャリア教育の目標を設定し、保護者や地域、関係機関との連携を図りながら、教職員が組織的に取り組む体制を構築することができる。
	情報教育	○児童生徒に、情報活用の実践力・情報の科学的な理解・情報社会に参画する態度を育成するとともに、ICTを活用した効果的な指導が学校全体として進められるよう、教職員に必要な指導・助言をすることができる。	○児童生徒に、情報活用の実践力・情報の科学的な理解・情報社会に参画する態度を育成するとともに、ICTを活用した効果的な指導が学校全体として進められるよう学校教育目標を設定し、教職員全員が専門性を高めて取り組む体制を構築することができる。
	教育課題への対応力	○児童生徒が人権について正しい理解と認識を深め、偏見や差別をなくしていくこととする態度を身につけるため、地域と連携して教職員が人権教育を組織的かつ系統的に進めていけるよう適切な指導・助言ができる。	○児童生徒が人権について正しい理解と認識を深め、偏見や差別をなくしていくこととする態度を身につけるため、学校の教育活動全体を通じて人権教育が総合的かつ系統的に展開できるよう、人権教育計画を策定し、保護者や地域、関係機関との連携しながら進めることができる。
特別な支援を必要とする児童生徒への対応	○すべての教職員が特別な支援を必要とする児童生徒への対応について見識を深めることができるよう、教職員に対して適切な指導・助言ができる。また、自校の状況を的確に把握し、必要な支援等が組織的に進められるよう教育体制を整えることができる。	○特別な支援を必要とする児童生徒への対応について深い見識を持ち、適切な指導や必要な支援が組織的に進められるよう、保護者および関係機関と連携して、自校の教育体制を構築するとともに、教職員に対して適切な指導・助言ができる。	
いじめに関する事項	○いじめの未然防止および早期発見・早期解決を図るため、学校いじめ防止基本方針に基づき、保護者や地域、関係機関等と連携して、組織的に対応することができるよう教職員をまとめることができる。また、いじめ事案が発生した際には、対応方針に沿って、問題解決に向けて組織的に対応できるよう、教職員に対して適切な指導・助言ができる。	○いじめの未然防止および早期発見・早期解決を図るため、学校いじめ防止基本方針を策定し、保護者や地域、関係機関等と連携して、組織的に対応する学校体制を構築することができる。また、いじめ事案が発生した際には、対応方針を明確にし、問題解決に向けて率先して誠実に対応するとともに、教職員に対して適切な指示及び指導・助言ができる。	
不登校に関する事項	○不登校および不登校傾向の児童生徒に対する深い見識を持ち、保護者に対する必要な支援や関係機関等との連携を行いながら、的確な対応ができるよう、教職員に対して適切な指導・助言ができる。	○不登校および不登校傾向の児童生徒に対する深い見識を持ち、保護者や関係機関等と連携し、率先して誠実に対応するとともに、教職員に対して適切な指導・助言ができる。	
防災に関する事項	○児童生徒が防災に関する知識を深め、危険を予測し回避する能力と自然災害に対応する力を身に付けられるよう、自校の方針に沿って、保護者や地域、関係機関と連携しながら自校の防災教育を組織的な取組を進めるとともに、教職員に対して適切な指導・助言ができる。	○児童生徒が防災に関する知識を深め、危険を予測し回避する能力と自然災害に対応する力を身に付けられるよう、防災教育の方針を定め、保護者や地域、関係機関と連携しながら組織的な取組を進めるとともに、教職員に対して適切な指導・助言ができる。	

校長および教員としての資質の向上に関する指標(中間案)

(3) 養護教諭に必要な事項(専門領域)

ライフステージ	教職着任時	第1ステージ	第2ステージ	第3ステージ	第4ステージ	
		初任～教職経験5年次	教職経験6年次～10年次	教職経験11年次～20年次	教職経験21年次以降	
		基礎形成期	伸長期	充実期	発展期	
資質能力にかか る項目	養護教諭として求められる基礎的な知識や技能を身に付けている。	実践力を磨き、基礎・基盤を固める。	知識や経験に基づいた実践力を高める。	多様な知識と経験に基づいた実践を展開するとともに、若手教員の指導を行い、学校の中核的役割を担う。	高い専門性と豊かな経験を持ち、高度な実践を展開するとともに、指導力を発揮し、学校づくりや教育活動をリードする。	
養護教諭に必要な事項(専門領域)	保健管理	○学校保健安全法を理解し、保健管理に必要な知識を有している。	○児童生徒の発達段階に応じてよく見られる心身の疾病や障がい理解するとともに健康課題を把握し、適切に対応できる。	○児童生徒の発達段階に応じてよく見られる心身の疾病や障がいを理解するとともに、健康課題を把握し、教職員等を支援して適切な対応ができる。	○保健管理について指導的立場を果たすとともに、保健情報を総合的に評価し、把握した健康課題の解決に向けて、組織的対応ができる。	○学校における事件事故・災害に備えた救急体制や心のケアの支援体制を整えるなど、保健安全について学校運営に参画することができる。
	保健教育	○学習指導要領を理解し、保健教育の専門性を有している。	○保健教育における養護教諭の役割を理解した上で、学級担任等と連携し、養護教諭の専門性を生かした保健教育ができる。	○児童生徒の実態に基づいた保健教育を実践、評価、改善し、効果的に推進できる。	○保健教育について、実践、評価をとおり、全体計画を作成し、効果的に推進できる。	○保健教育について、他の教職員や保護者等に対し、指導的な役割を果たすことができる。
	保健室経営	○保健室経営における養護教諭の役割を理解している。	○学校保健目標を理解し、保健室の機能を生かした経営計画を作成し、計画に基づいて実践できる。	○保健室経営計画に基づいて、適切な保健室経営を行うことができる。	○学校目標の実現に向け、保健室経営計画に基づいて実践、評価、改善し、より効果的な保健室経営を行うことができる。	○学校運営に参画し、効果的に保健室経営を推進するために、他の教職員に対し、指導的立場を果たすことができる。
	健康相談	○健康相談の意義を理解し、心身の発達段階における健康課題を理解している。 ○カウンセリングマインドを持って、児童生徒の相談を受けられることができる。	○健康相談の基本的なプロセスを理解し、児童生徒の心身の発達段階における課題や現代的な健康課題をふまえた健康相談を実施することができる。 ○カウンセリングマインドを持って、健康相談に対応できる。	○児童生徒の健康課題を的確にとらえ、学校医等の専門職や保護者との連携を図りながら、適切な健康相談を実施することができる。 ○カウンセリングマインドを持って、他の教職員と協働して健康相談に適切な対応ができる。	○心身の健康課題を総合的にとらえ、校内支援体制の充実に努めるとともに、学校医等の専門職や保護者と連携し、健康課題について効果的な対応ができる。 ○カウンセリングマインドを持って、他の教職員を支援して健康相談に適切な対応ができる。	○心身の健康課題に関して教職員等に対し、指導的役割を果たすことができる。 ○カウンセリングマインドを持って、他の教職員に指導・助言を行いながら、児童生徒の実態に応じた適切な対応ができる。
	保健組織活動	○保健組織活動の意義と学校保健に関する校内外の協力体制の重要性を理解している。	○校内外の保健組織(学校保健委員会・児童生徒保健委員会・PTA保健委員会等)の企画、運営に参画できる。	○保健組織が主体的に活動できるよう内容の工夫、改善を図ることができる。	○近隣の学校と連携し、地域レベルでの健康づくりを推進することができる。	○健康づくりの推進に向けて、他の教職員や保護者、関係機関に対し、指導的役割を果たすことができる。

校長および教員としての資質の向上に関する指標(中間案)

(4) 栄養教諭に必要な事項(専門領域)

ライフステージ	教職着任時	第1ステージ	第2ステージ	第3ステージ	第4ステージ	
		初任～教職経験5年次	教職経験6年次～10年次	教職経験11年次～20年次	教職経験21年次以降	
		基礎形成期	伸長期	充実期	発展期	
資質能力にかか る項目	栄養教諭として求められる基礎的な知識や技能を身に付けている。	実践力を磨き、基礎・基盤を固める。	知識や経験に基づいた実践力を高める。	多様な知識と経験に基づいた実践を展開するとともに、若手教員の指導を行い、学校の中核的役割を担う。	高い専門性と豊かな経験を持ち、高度な実践を展開するとともに、指導力を発揮し、学校づくりや教育活動をリードする。	
栄養教諭に必要な事項(専門領域)	給食管理	栄養管理(献立作成)	<ul style="list-style-type: none"> ○学校給食摂取基準に基づく栄養管理ができ、食品構成を考慮した献立を作成することができる。 ○魅力あるおいしい給食の調理と配食量について、指導・助言ができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○郷土食、地場産物を取り入れ、各教科等の食に関する指導と関連させながら、献立を作成することができる。 ○食事状況調査、嗜好調査、残食量調査等の結果をふまえた献立を作成することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○郷土食、地場産物を積極的に取り入れ、各教科等の食に関する指導と意図的に関連させながら、献立を作成することができる。 ○児童生徒の体格および活動レベルを考慮し、地域の実情等に応じた栄養管理を行い、評価・改善ができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○児童生徒の体格および活動レベルに応じた栄養管理や献立作成に関し、適切な指導や助言を行うことができる。 ○自校だけでなく広域的に、栄養管理や献立作成および運営に関し、中心的な役割を果たすことができる。
		衛生管理	<ul style="list-style-type: none"> ○学校給食衛生管理基準を理解し、衛生管理に関する専門的な知識・技能を有している。 	<ul style="list-style-type: none"> ○学校給食衛生管理基準を理解し、施設設備の実態に応じた衛生管理ができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○学校給食衛生管理基準の理解を深め、調理従事者、施設設備および食品の衛生に関して、日常管理および適切な指導・助言ができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○衛生管理を食に関する指導と一体化した観点から評価・改善し、食に関する指導に生かすための情報等を全教職員に対して提供・助言ができる。 ○自校だけでなく広域的に、衛生管理や物資管理および運営に関し、中心的な役割を果たすことができる。
	食に関する指導	給食の時間の指導	<ul style="list-style-type: none"> ○学級担任等と連携して給食の指導を行うことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○学級担任等と連携した指導を行うことができる。 ○学級担任等が活用できる資料の提供や助言を行うことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○学級担任等と連携し、発達段階に応じた指導を行うことができる。 ○教科等との関連を考慮し、学級担任等が継続した指導につなげるための支援や指導計画作成に参画できる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○学級担任等と連携し、発達段階に応じた適切な指導を行うことができる。 ○献立計画を活用し、学級担任等が計画的に継続した指導をするための支援や指導計画作成に参画できる。 ○組織の中で中心的な立場で参画することができる。 ○献立計画をふまえ、学級担任等が継続的・効果的に指導をするための指導・助言ができる。
		教科等における指導	<ul style="list-style-type: none"> ○学習指導要領を理解し、食に関する指導ができる。 ○コーディネーターとしての役割を理解している。 	<ul style="list-style-type: none"> ○学習指導要領を理解し、栄養教諭の専門性を生かした指導・連携ができる。 ○児童生徒の実態や学校教育の全体計画を作成することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○学校の特徴を生かし、家庭・地域と連携した食に関する指導を推進することができる。 ○栄養教諭の専門性を生かし、コーディネーターとしての役割を果たすことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○学校の特徴を生かし、積極的に家庭・地域と連携した食に関する指導を推進することができる。 ○食に関する指導を効果的に進めるため、栄養教諭の専門性を生かし、コーディネーターとしての役割を果たすことができる。 ○地域において、校種間を通じた一体的な食に関する指導を推進するために、連携・調整を行うとともに、指導・助言ができる。
個別の相談指導	<ul style="list-style-type: none"> ○カウンセリングマインドを持って、児童生徒の食に関する相談を受けることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○児童生徒の食に関する健康課題を把握し、学級担任や養護教諭等と連携し、保護者に対する指導・助言を行うことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○専門知識に関する最新の情報収集に努め、教職員に対する情報提供や助言を行うことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○関係機関や専門機関と連携を図り、指導および支援を行うことができる。 ○児童生徒の状況を総合的に評価・判定し、関係機関や専門機関と連携を図り、指導および支援を行うことができる。 		